

みずき 便り



特集
地震に強い水道
災害対策本部を常設



今年も8月27日に飯泉取水管理事務所で、9月17日に社家取水管理事務所で「みずきフェスタ」を開催しました。
(写真はその時の様子)

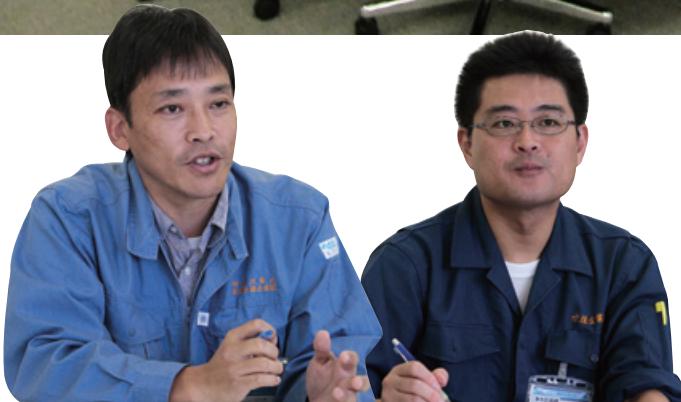
平成23年9月1日の防災訓練。
最大級の地震が発生したという想定で、幹部職員が一堂に「災害対策本部」に集まつた

特集

地震に強い水道

「災害対策本部」を常設

企業団では平成23年9月1日の防災訓練を契機に、横浜市旭区の本庁舎内に「災害対策本部」を常設することになりました。近い将来、東海地震や南関東沖地震が起こると予想される中、「たとえ何があっても水を供給する」という使命のもとに、あらゆる可能性を検討・想定し、さまざまな角度から災害対策の強化を進めています。その役割や機能について、技術部浄水計画課課長補佐の小池健一さんと同課・浄水技術係の杉山浩さんに話を聞きました。



神奈川県内広域水道企業団
技術部浄水計画課
課長補佐
小池 健一さん

技術部浄水計画課
浄水技術係
杉山 浩さん

「素早い対応」 災害対策本部の常設化(本庁舎内)

平成23年9月1日、東海地震を想定した防災訓練が行われました。本庁舎の会議室に設置した「災害対策本部」に幹部職員が集まり、各浄水場から被害状況などを集め、すばやく対応を指示するなど、本番さながらのロールプレイが行

われました。

そして、この日に合わせて設置された府内LANや各種モニター、緊急ホットライン(直通電話)など災害対策本部に必要な情報機器は常設化としました。

「災害発生時、対応要員が1~2名しかいなくても、電源を入れるだけで“対策本部”が動かせます。本部設置にかかる時間さえも惜しんで、スピーディに対策が講じられると思います」(小池さん)。

災害対策本部の設置については、震度に応じて「設置レベル」が決まっています。通常の地震では2段階、東海地震

の場合は3段階で決められており、レベルに応じてより多くの配備者を集め、対策にあたることになります。

また、災害時の迅速な復旧活動には、施設の図面等の情報が必要になります。常設した災害対策本部では、府内LANを通して電子化された図面データが閲覧できるほか、被災による電子データの損失に備え、各種図面等を常備することとしています。

なお、この常設化した災害対策本部は大型プロジェクターや複数のモニター類が設置され、各種プレゼンテーションや企業団施設のリアルタイムな情報も閲覧可能なことから、災害時以外は研修等に活用することとしています。



「水の供給を絶やさない」緊急時の班体制

「訓練でできないことは、本番でもできません。従来は阪神・淡路大震災の発生した1月17日に行っていた“参集訓練”を、今年度から人事異動直後の年度当初に実施するように変えました」(小池さん)。

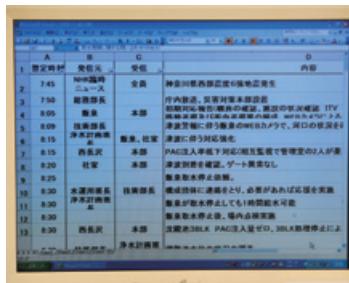
「参集訓練」とは、通常の所属部署に関係なく、災害時は自宅から最も近く

の予め指定された施設に、徒歩や自転車で参集することを想定した訓練です。また、緊急時における「班」の役割も見直しています。

日常業務の「課」が災害発生時は「班」となり、より優先度の高い業務にしづり、一時も水の供給を絶やさないように努めます。



施設概要図で災害箇所を説明する小池さん

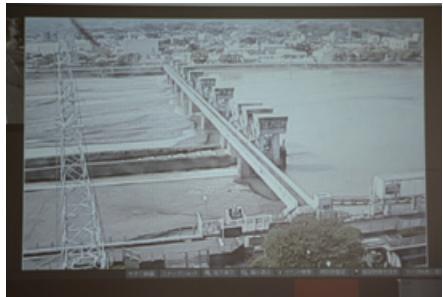


刻一刻と変わる状況をPCに入力する。大スクリーンに時系列に情報を映し出し、情報共有を図る

操作する杉山さん

「被害状況をいち早く知る」 ウェブカメラの設置(飯泉取水ぜき)

東日本大震災の教訓を受けて強化したことはもうひとつ、津波への対策でした。「これまで津波が発生し、川下から水が



360度回転するウェブカメラで、飯泉取水ぜき周辺の様子が把握できる

逆流して取水ぜきにぶつかるということは想定してこなかったため、神奈川県が検討している津波の規定に基づき、今後具体的な対策を早急に検討する必要があります。またウェブカメラを取水ぜきに設置し、対策本部から状況がリアルタイムにモニターできるようにしました」(小池さん)。

取水ぜきに設置したウェブカメラは、現在は1カ所。津波の危険性がもっとも心配される飯泉取水ぜきを一望できる場所に設置されています。



「速やかな復旧」のための災害時の協定の締結

万が一、水道施設に被害が出た場合には、速やかに復旧するために、資材や労務を提供してくれるパートナーが大切です。企業団では、民間企業との災害時の協定の締結を進めるほか、大井川水道企業団(静岡)や阪神水道企業団(兵庫)など、地理的に少し遠い場所に位置する事業体との協定も進

めています。

「今回の震災後、燃料が入手しにくくなったときに協定企業団の協力で調達することができ、「ある程度距離が離れている」事業体との協定の重要性を痛感しました」(小池さん)。

速やかな復旧を行うためにあらゆる手立てを考え、備えを進めています。





各地域にあるさまざまな水に関する施設や仕組みを紹介します。

放射性物質測定装置 <Captus3000>



安心して飲める水、毎日検査しています

白い円筒状をしたふた付きの入れ物は、Nalシンチレーション・スペクトロメーター Captus3000という放射性物質測定装置です。円筒は鉛でできており、装置の外からの放射線を遮って筒の中のサンプルの放射線量を測定できるようになっています。

企業団では今年8月から毎日、水質管理センターにあるこの装置で企業団の各施設の浄水の放射性物質を測定しています。

今年3月に発生した福島第一原発の放射能漏れ事故直後、放射性物質を測定できる装置は神奈川県内の水道事業体では横須賀市上下水道局にしかありませんでした。そのため7月までの間、県内の水道事業体職員が毎日交代で横須賀市に出向き、県内各施設の浄水の放射性物質の測定を依頼していました。8月以降、県内の水道事業体で逐次、測定装置が導入され、水道事業体がそれぞれ自前で測定を行えるようになりました。

神奈川県内広域水道企業団のご紹介

将来の水需要の増加に対応するため昭和44年、神奈川県をはじめ横浜市、川崎市、横須賀市が構成団体となった「特別地方公共団体」として、神奈川県内広域水道企業団(水道企業団)は誕生しました。

水道企業団は相模川・酒匂川で取水した水を県内4カ所の浄水場で水道水にしており、各構成団体の水道局で作られる水道水に、水道企業団の水道水をブレンドして届けています。

構成団体を通じて、家庭に届けられる約半分に相当する水道水を水道企業団が供給しています。

全施設の浄水を毎朝集めて測定

毎朝9時に各地点から検査室に運ばれてきた浄水を検査員が袋に入れ、ガンマ線が当たると発

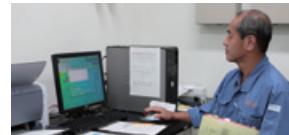


光するセンサーの上にセットします。検査員は検出された光の強弱を解析することで水の中の放射性物質の種類と量を判定しています。

平日は毎日ホームページで公表しています

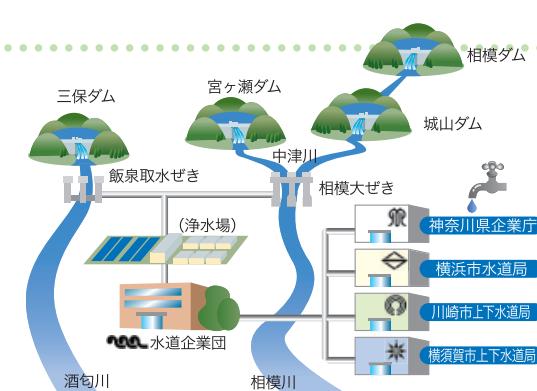
浄水の測定結果はその日のうちに企業団ホームページに公表しています。つまり朝9時時点の浄水の安全性についてはその日の夕方に確認することができます。土・日・祝日に採取した浄水については翌開庁日に測定を行い、測定結果を公表しています。

なお、放射性物質の測定は、企業団のみならず、県内13水道事業体の業務も受託しています。



コンピュータ画面に検査結果が表示される

<水道水の放射性物質の測定結果について>のページ
<http://www.kwsa.or.jp/suisitu-rinji.html>



かながわ 水道 NEWS & TOPICS

水道企業団を構成する県企業庁、横浜市水道局、川崎市上下水道局、横須賀市上下水道局からのお知らせです。

神奈川県企業庁

神奈川県営水道ラッピングバスが
県内を走ります

県営水道キャラクター
カッピー

県営水道を身近なものとして感じていただくとともに、水道水の安全性をPRするため、青い空、山、川といった自然を背景に、県営水道のキャッチコピー「森の恵みをあなたのものとへ」とキャラクターのカッピーなどを車体にデザインしたラッピングバスを、平成23年9月25日から6ヶ月間、相模原市、平塚市及び厚木市を中心に給水区域内で運行しています。



川崎市上下水道局

今年も上下流域自治体間交流事業
を実施します!

川崎市上下水道局キャラクター
ウォータン

この事業は、普段、ダム湖の水を水道水として利用している川崎市民が、上流の水源地域における様々な体験や地元の方との交流を通して、水源地域や水源環境に対する理解と関心を深めていただくことを目的に実施するものです。

昨年は10月に相模原市緑区(旧藤野町)で実施され、陶芸や木工などの芸術体験や栗拾い、温泉を楽しむツアーで、参加者にも大好評でした。

今年は12月3日(土)に実施し、神奈川県山北町において、山林の間伐作業体験やみかん狩りなどを予定しています。

参加者の募集については、すでに9月末で締め切りましたが、多くの方からの応募がありました。

神奈川県、山北町との連携のもと、いつも身近にある水を育んでくれている、豊かな自然に囲まれた山北町に川崎市民をご案内します。



昨年の栗拾いの様子

横浜市水道局

メールマガジン「よこはま@水」の
会員を募集しています!

横浜市水道局キャラクター
はまピョン

横浜市水道局では、好評の「水源地見学バスツアー」のご案内や「横浜のおいしい水検定」などのイベント情報、災害対策、水質情報など、横浜の水道に関する情報を毎月1回配信しています。メールマガジンに登録いただける方は、ウェブサイト「水道局メールマガジン」のページから入会の手続きをお願いします。

登録無料! 横浜の水情報を、毎月お届けします。
ぜひ、この機会に登録を!

横浜市水道局 メールマガジン

【URL】 <http://www.city.yokohama.lg.jp/suidou/kyoku/torikumi/suidou-pr/koho/mailmaga.html>

こちらからも登録できます。
ウェブサイト用



【注意】

サービスの利用は無料ですが、Eメールを利用する環境(接続に必要な設備、通信費など)については、登録者の負担となります。利用上の注意をご確認のうえ、ご登録をお願いします。



横須賀市上下水道局

横須賀水道発祥の地 走水水源地より
「よこすか名水走水湧水」
大好評販売中!!

横須賀上下水道イメージキャラクター
アクアン

ことし7月、ヴエルニーの水として親しまれている走水水源地の湧水がペットボトルで復活しました。横須賀の名水が、皆さまのご家庭でも楽しめます。

【特徴】 軟水が多い国内のミネラルウォーターの中では数少ない中硬水です。カルシウムやマグネシウムなど天然ミネラルが手軽に補給できるという特性を持つつ、硬水に比べてケセがなく、まろやかで飲みやすい口当たりが楽しめます。100年以上横須賀で愛され、横須賀水道始まりの走水湧水を皆さまも是非一度ご賞味ください。

【販売場所】 販売場所は、横須賀市役所1階生活彩家、YYポート横須賀、すかなごっそ、ヨコスカドバイタステーションなどで販売しており、YYポート横須賀では横須賀市外の宅配も承っています。



詳細は、上下水道局HPで

横須賀 上下水

水道企業団キャラクター
ウォービー

新技術研修会が開催されました

9月14日(水)に新技術研修会が三ツ境本庁舎にて実施されました。この新技術研修会は民間企業が持つ、水道に関する先端技術を学び、新たな視点で業務に活かすことを目的に平成22年度から開始されました。

今回は水king株式会社を招き、「水道事業に係る官民連携について」というテーマで研修会を行い、企業団からは28名が参加しました。参加者からは「今後の水道事業のあり方を考える上で、大変有意義な報告でした」との声が多く聞かれました。



研修会の様子

表紙写真募集

当企業団では、広報誌「みずき便り」の表紙の写真を随時募集しております。

テーマは水にまつわる風景(川、湖、ダムなど)、水と人との生活のかかわり等で未公表のものとし、仕様は、写真の場合はプリントサイズL版以上、画像の場合はA4サイズでぼやけない程度のものとします。ご応募頂いた中から企業団で選考し、選考された方に企業団からご連絡致します。掲載された場合の著作権は企業団に帰属するものとします。

ご応募は電子メールで写真データを添付していただくか、封書で写真を同封し、住所、氏名、電話番号を明記の上、以下の宛先かメールアドレスまでご応募下さい。掲載された方には粗品を進呈します。

〒241-8525 横浜市旭区矢指町1194番地
神奈川県内広域水道企業団 総務課宛
info@kwsa.or.jp

民間企業研修生による研修成果報告会が開催されました

9月28日(水)、三ツ境庁舎にて民間企業研修生として受け入れた株式会社メタウォーターの伊妻正博さんと水King株式会社の麻生瑞紀さんにより、「企業団での研修成果について」と題して現在までの研修で得た内容を報告して頂きました。

お二人とも、引き続き企業団の研修を継続していただくことになっており、官民の交流を通じ、更なる技術の向上につながることを期待します。



研修成果報告会の様子

企業団の節電の取り組み状況について

企業団では、東京電力(株)の供給力の低下に伴い、現在でも節電を継続していますが、夏季(7月～9月)の結果につきましては次のとおりでした。

- ①浄水場などの水道施設では、7月1日から9月9日までの平日9時から20時までの間、電気事業法に基づき使用最大電力を昨年度比で5%制限する措置が実施されましたが、構成団体の協力を得てポンプの運転抑制等に努めた結果、対象施設の全てで平均15%以上の達成ができました。
- ②本庁舎では、執務室の消灯等に努めた結果、昨年度比で約19%の節電を行うことができました。

《表紙の言葉》「みずきフェスタ」

今年も2会場で「みずきフェスタ」を開催し、多くの方々にお越しいただきました。来場された方から「企業団が水の安全のために大変努力していることが分かりました」といった声を多く頂き、職員一同、大変うれしく思っています。来年も更に喜んでもらえるイベントにしていきたいと思います。